

HP Operations Agent

ソフトウェアバージョン: 12.00

Windows®、HP-UX、Linux、Solaris、AIX

ライセンスガイド

ドキュメント リリース日: 2015 年 9 月 (英語版)

ソフトウェア リリース日: 2015 年 9 月



ご注意

保証について

HP 製品およびサービスに関する保証は、これらの製品およびサービスに付随する明示的保証書に記載された内容に限定されます。本文書には、追加の保証を規定している箇所はありません。HP は、本文書に含まれる技術的または編集上の誤りや遺漏に対して、責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスが付与されます。

著作権について

© Copyright 2010 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe ® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft ® および Windows ® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX ® は The Open Group の登録商標です。

この製品には、汎用圧縮ライブラリ「zlib」インターフェイス (Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler) が含まれます。

謝辞

この製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) 氏によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

この製品には、OpenSSL ツールキットで使用するために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>)

この製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) 氏によって作成されたソフトウェアが含まれています。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインターフェイスが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

本書のタイトル ページには、以下の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース日付。ドキュメントがアップデートされるたびに更新されます。
- ソフトウェア リリース日付。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日付を示します。

最新のアップデートを確認したり、ドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認したりするには、以下の URL にアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP Passport への登録とサインインが必要となります。HP Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。 <https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

または、HPソフトウェアサポートページ上部の登録リンクをクリックしてください。

また、適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいた場合は、アップデート版または新版をお送りします。詳細は、正規販売代理店にお問い合わせください。

サポート

次の HP ソフトウェア サポート オンラインの Web サイトにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトには HP ソフトウェアの製品、サービス、サポートに関する詳細情報とコンタクト先が示してあります。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ技術情報を提供しています。ビジネスの管理に必要なインタラクティブな技術サポート ツールに、すばやく効率的にアクセスすることができます。サポート Web サイトを使用することにより、重要なサポートカスタマとして以下のメリットを受けることができます。

- 興味のある知識に関するドキュメントを検索する
- サポート ケースおよび機能強化要求を提出し追跡する
- ソフトウェアのパッチをダウンロードする
- サポート契約を管理する
- HP サポートの連絡先を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア カスタマと議論を始める
- ソフトウェア トレーニングに関して調査し登録する

ほとんどのサポート領域では、HP Passport ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約が必要となります。HP Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセス レベルの詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP 製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトの URL は

<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

目次

第1章: はじめに	6
評価ライセンス	6
延長ライセンス	6
恒久ライセンス	6
HP Operations Agent 12.00 の新しい機能	7
評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定	8
第2章: HP Operations Agent 12.00 の LTU	9
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	9
HP Operations OS Inst Performance LTU	10
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	10
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	11
Glance Software LTU	12
Glance Pak Software LTU	13
各 LTU で使用可能なアドイン モジュール	13
LTU の比較表	14
第3章: プロファイル ファイルを使用したライセンスの適用	15
プロファイル ファイルを使用したスタンドアロン ノードへのライセンスの適用	15
リモートの HPOM for Windows からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用 ..	16
リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用	17
第4章: 評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用	19
手動によるノードへの適用	19
ライセンスの詳細の例	21
管理サーバーからの一括適用	21
HPOM for Windows コンソールからの適用	21
UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用	22
HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用	22
評価ライセンスの有効期限の延長	23
アラートの生成	25
第5章: HP Operations Agent 12.00 へのアップグレード	26
第6章: 恒久ライセンスの削除	28
第7章: 既存の LTU の変更	29
例 1	29
例 2	29

ドキュメントのフィードバックを送信 31

第1章: はじめに

インストールの種類に基づいて、HP Operations Agent は、次のいずれかのタイプのライセンスで使用できます。

- 評価ライセンス
- 延長ライセンス
- 恒久ライセンス

oalicense ユーティリティは、ライセンスを有効にするために役立ちます。また、oalicense ユーティリティを使用すると、一方のライセンスタイプからもう一方に移行できます。

評価ライセンス

スタンドアロン ノードに製品をインストールする場合、ノードでライセンスを設定することで HP Operations Agent が使用可能となります。デフォルトライセンスは「なし」に設定されています。評価ライセンスでは、HP Operations Agent のすべてのモジュールとコンポーネントが 60 日間有効になります。評価ライセンスは 60 日後に有効期限が切れ、製品は無効になります。製品の使用を継続するには、恒久ライセンスを適用するか、または評価ライセンスを延長します。

延長ライセンス

評価ライセンスの有効期限を延長すると、HP Operations Agent を評価モードでより長期間使用できます。評価ライセンスを延長すると、この LTU で提供される機能をさらに 60 日使用することができます。評価ライセンスの延長は 2 回まで可能です。評価ライセンスを 3 回延長しようとする、ライセンスの最大延長回数に達していることを示すエラー メッセージが表示されます。

恒久ライセンス

HP Operations Agent の恒久ライセンスには、特定の期限はありません。このライセンスを使用する場合、必要に応じて、利用可能な**使用権** (LTU: Licenses to Use) から選択できます。

HP Operations Agent 12.00 は、次のアドイン モジュールにより、リアルタイム診断と監視機能を提供します。

- リアルタイム メトリック アクセス (RTMA) - リアルタイム ベースのシステム パフォーマンス メトリックへのアクセスを可能にします。csh ユーティリティを使用して、リモート マシンのパフォーマンス メトリックをリアルタイムで監視できます。これは、RTMA のコンポーネントにあります。

- リアルタイム計測 (RTM) - HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示される豊富なインターフェイスを使用して、システムのパフォーマンス メトリックをリアルタイムに監視できます。RTM 機能は hpsensor を通じて提供されます。
- GlancePlus ソフトウェア - グラフィカルな表形式で表されるデータを使用して、システムのパフォーマンスをリアルタイムに監視できます。

異なる LTU を使用して、上記のすべてのモジュールを使用することも、それらを組み合わせて使用することもできます。LTU については、「[HP Operations Agent 12.00 の LTU](#)」を参照してください。

HP Operations Agent 12.00 の新しい機能

次の表で、各シナリオに使用する新しいライセンスング ポリシーを示します。

表 1: 新しいライセンスングの動作

シナリオ	評価ライセンス	恒久ライセンス	動作するコンポーネント
HP Operations Agent をスタンドアロン ノードにインストール。	<ul style="list-style-type: none"> なし (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> なし (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「 LTU の比較表 」(14 ページ)を参照してください。
HP Operations Agent を HPOM コンソール からリモートにインストール。	<ul style="list-style-type: none"> なし (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> HP Operations OS Inst Adv SW LTU (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「 LTU の比較表 」(14 ページ)を参照してください。
ノードの 11.xx バージョンから HP Operations Agent 12.00 にアップグレード。	<ul style="list-style-type: none"> 12.00 バージョンのインストール後も、既存の評価ライセンスが動作します。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 12.00 バージョンのインストール後も、既存の恒久ライセンスが動作します。 必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「 LTU の比較表 」(14 ページ)を参照してください。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定

評価ライセンスまたは恒久ライセンスは、以下の方法で設定できます。

- **スタンドアロン ノードまたは管理サーバーからの適用:** この方法では、LTU ごとに `oalicense` コマンドを使用し、ノードの恒久ライセンスを手動で有効にします。

スタンドアロン ノードに HP Operations Agent 12.00 をインストールすると、ライセンスのデフォルト設定はなしとなります。ライセンスを適用した場合にのみ、運用監視コンポーネントと Performance Collection Component が開始されます。基本的な HP Operations Agent プロセスは、ライセンスを設定しなくてもノードで機能します。HPOM が存在しない環境でスタンドアロン サーバーに HP Operations Agent をインストールすると、基本的な HP Operations Agent プロセスのみが有効となります。

HPOM コンソールを使用してリモート インストールを行うと、恒久ライセンスがノードで有効になります。

詳細情報は、「[評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

- **プロファイル ファイルの使用:** この方法では、プロファイル ファイルの利用可能な LTU リストから、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。HP Operations Agent のインストールを開始する前に、テキスト ファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。詳細情報は、「[プロファイル ファイルを使用した評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: HP Operations Agent 12.00 の LTU

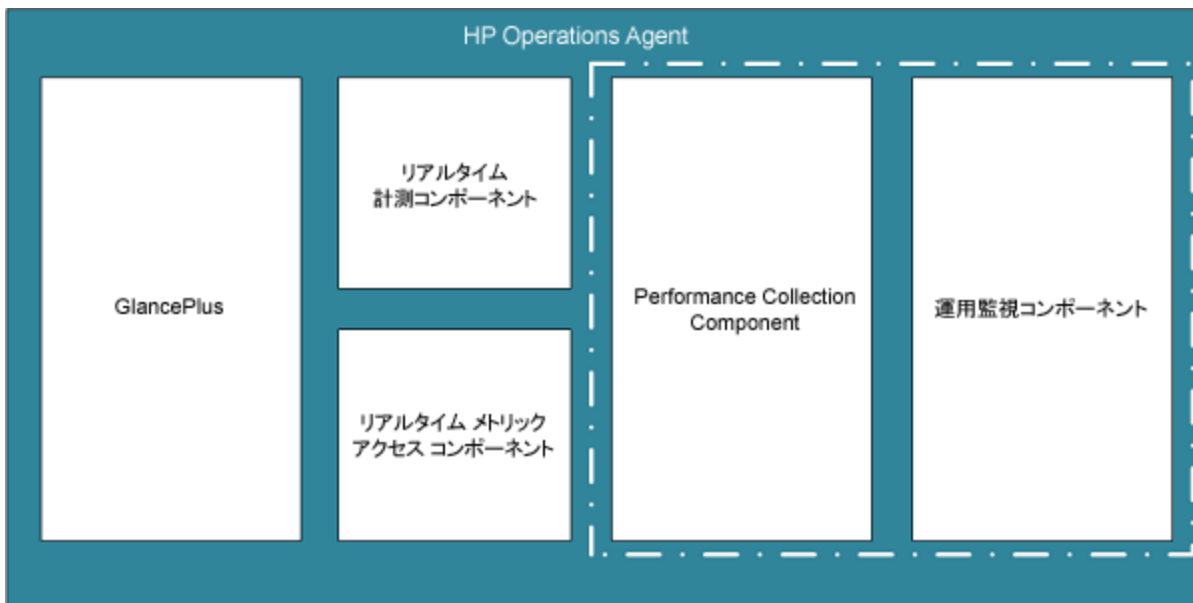
HP Operations Agent 製品の次のいずれかの使用ライセンス (LTUs) を適用できます。

- HP Operations OS Inst Adv SW LTU
- HP Operations OS Inst Performance LTU
- HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
- HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU
- Glance Software LTU
- Glance Pak Software LTU

HP Operations OS Inst Adv SW LTU

この LTU では、RTM、RTMA、GlancePlus 以外の HP Operations Agent のコンポーネントをすべて使用できます。

図 1: HP Operations OS Inst Adv SW LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

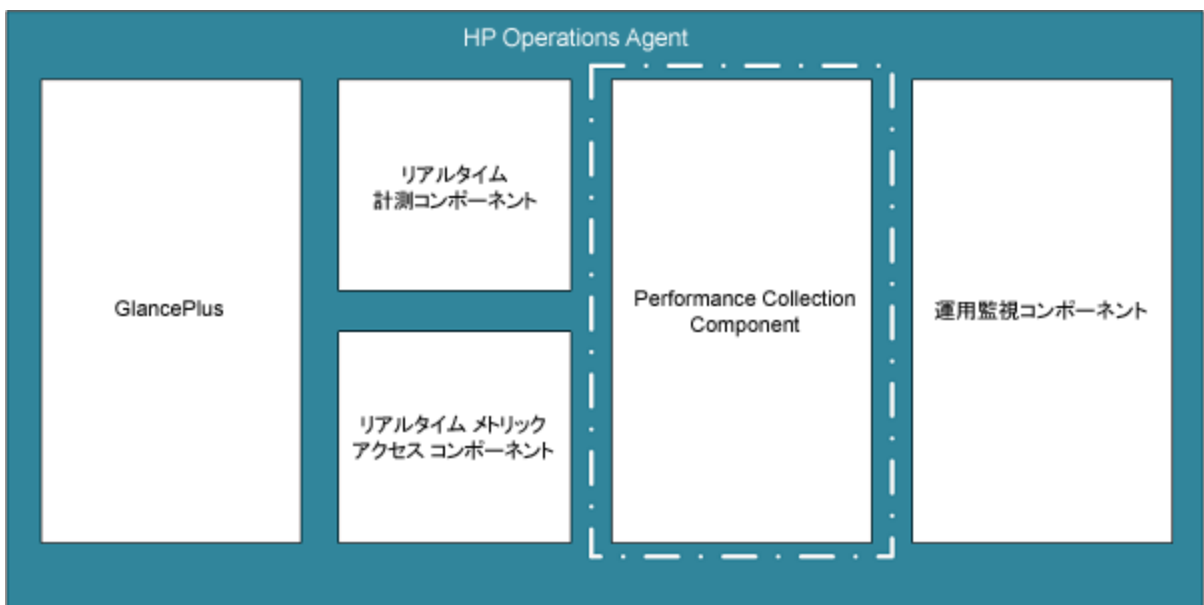
HP Operations OS Inst Adv SW LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations Agent をインストールする必要があります。HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations Agent をインストールする場合、HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Operations OS Inst Performance LTU

この LTU では、HP Operations Agent の Performance Collection Component のコンポーネントのみを使用できます。この LTU では、スタンドアロン システムのパフォーマンスを監視できます。

図 2: HP Operations OS Inst Performance LTU で有効になるコンポーネント



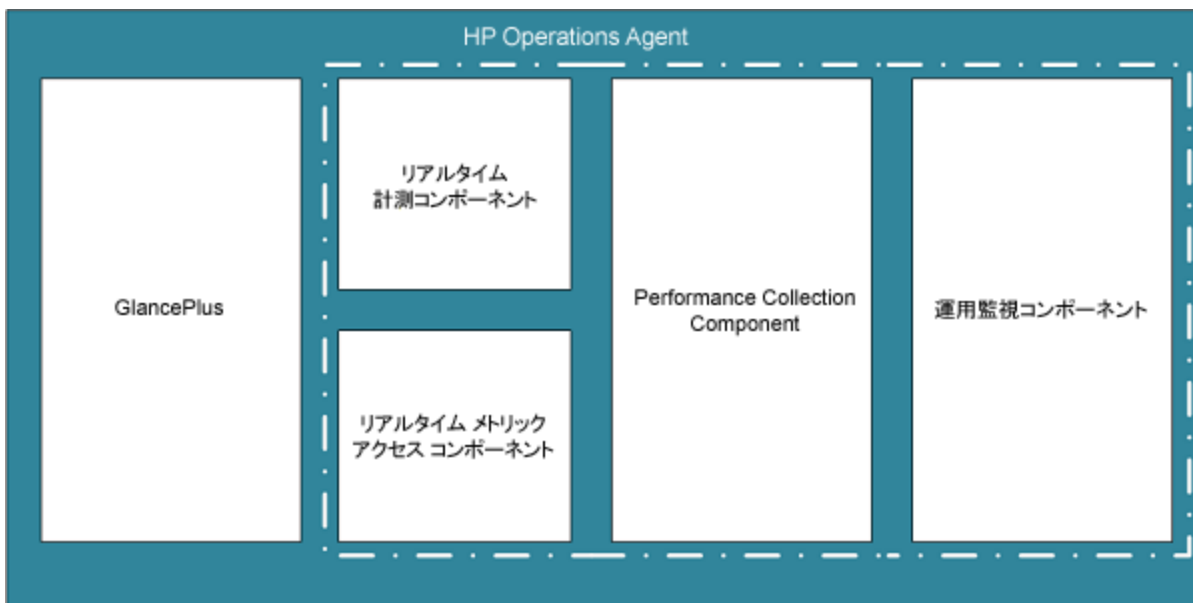
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU

この LTU では、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを含む HP Operations Agent の機能をすべて使用できますが、GlancePlus ソフトウェアは含まれません。この LTU を適用したら、HP Operations Agent 12.00 を HP Performance Manager 9.00 に統合して、HP Operations Agent が複数のノードから収集するリアルタイムのシステム データを、HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示できます。さらに、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations Agent が収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。

この LTU を適用する前に、HP Operations OS Inst Adv SW LTU がすでにノードに適用されていることを確認してください。

図 3 は、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 3: HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations Agent をインストールする必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU :** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations Agent をインストールする場合、HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU

この LTU は、スタンドアロン サーバーにある既存の HP Operations OS Inst Performance LTU を HP Operations OS Inst Adv SW LTU にアップグレードして、RTM、RTMA、GlancePlus のコンポーネント以外の HP Operations Agent の機能を使用可能にします。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

追加のバージョン

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU は次の追加バージョンで使用できます。

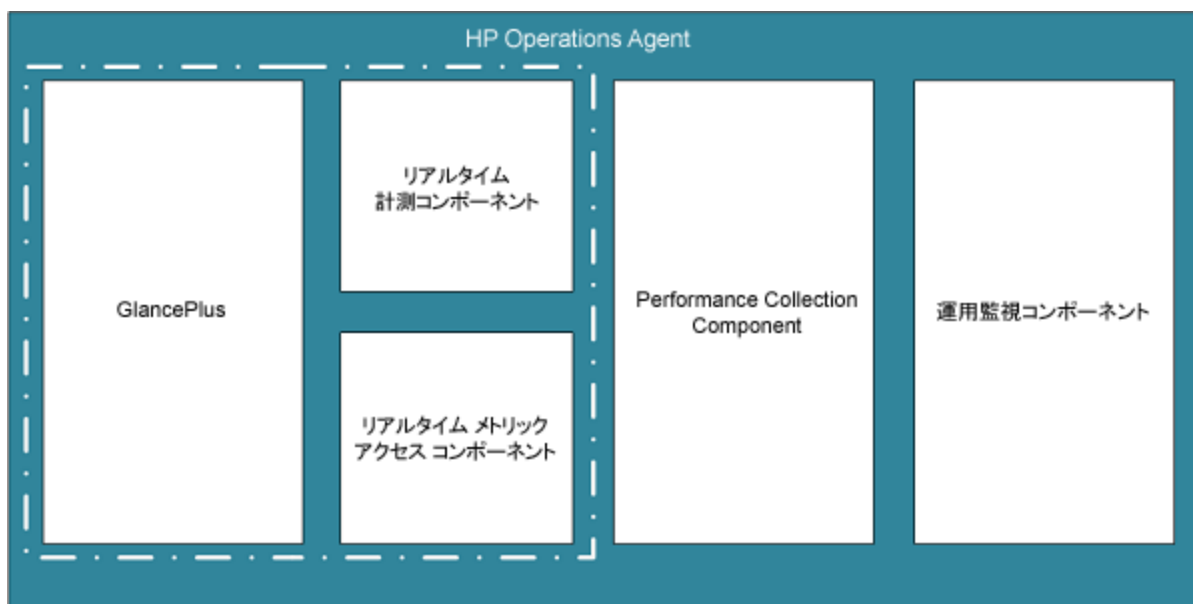
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations Agent をインストールする必要があります。HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations Agent をインストールする場合、HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

Glance Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU は、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで有効にします。この LTU のみをノードで有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで使用できます。この LTU を使用すると、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations Agent が収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。HP Operations Agent のその他の標準機能は使用できません。

図 4: Glance Software LTU で有効になるコンポーネント

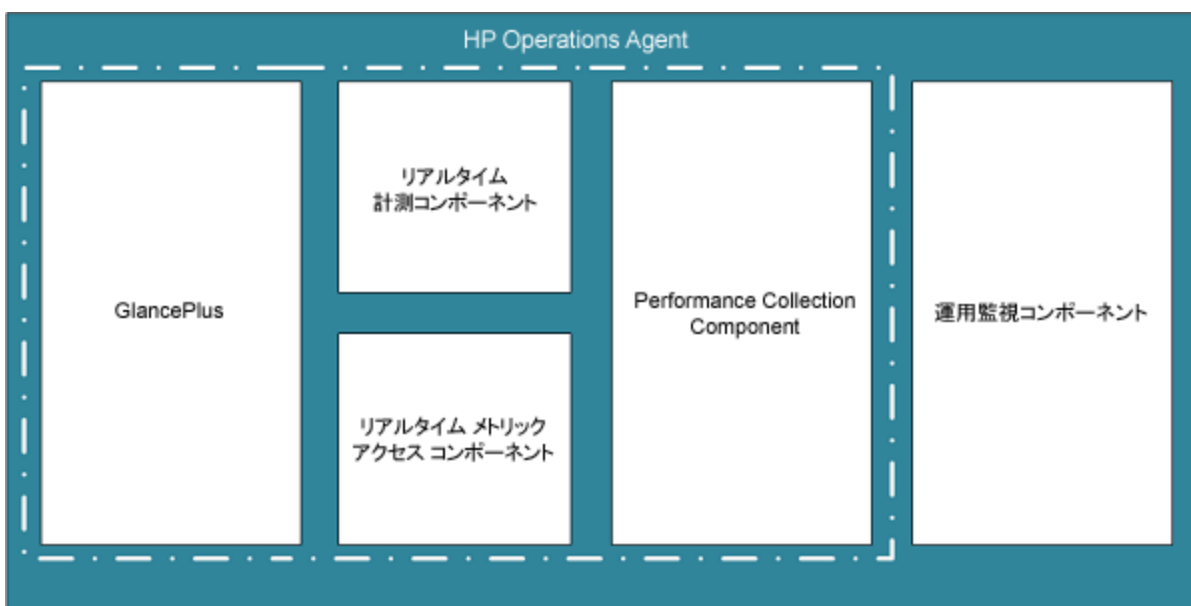


Glance Pak Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU では、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント、および HP Operations Agent の Performance Collection Component のコンポーネントのみを使用できます。この LTU を使用すると、csh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations Agent が収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。

図 5: Glance Pak Software LTU で有効になるコンポーネント



各 LTU で使用可能なアドイン モジュール

評価ライセンスでは、HP Operations Agent と RTM コンポーネント、RTMA コンポーネント、GlancePlus ソフトウェアをノードで有効にできます。ただし、インストール後 60 日以内に恒久ライセンスを適用しないと（または評価ライセンスを延長しないと）、HP Operations Agent（および RTM、RTMA、GlancePlus）は使用できなくなります。6 種類の異なる LTU から選択できます。これらのいずれかの LTU を使用すると、HP Operations Agent をアドイン モジュール（RTM、RTMA、GlancePlus）と組み合わせてノードで有効にできます。

表 2 は、HP Operations Agent の各 LTU で使用可能なアドイン モジュールを示しています。

表 2: 各 LTU でのアドイン モジュール

LTU	GlancePlus ソフトウェア	RTM	RTMA
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	不可	不可	不可
a) HP Operations OS Inst Performance LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	不可	可能	可能
b) Glance Pak Software LTU	可能	可能	可能
c) Glance Software LTU	可能	可能	可能

a) HP Operations OS Inst Performance LTU のみを有効にする場合、Performance Collection Component のコンポーネント以外の HP Operations Agent の標準機能は使用できません。

b) Glance Pak Software LTU のみを有効にする場合、Performance Collection Component、GlancePlus ソフトウェア、RTM コンポーネント、および RTMA コンポーネント以外に、HP Operations Agent の標準機能は使用できません。

c) Glance Software LTU のみを有効にする場合、GlancePlus ソフトウェア、RTM コンポーネント、および RTMA コンポーネント以外に、HP Operations Agent の標準機能は使用できません。

LTU の比較表

表 3 は、各 LTU で使用できる HP Operations Agent のコンポーネントを示しています。

表 3: LTU の比較表

LTU とコンポーネント	運用監視コンポーネント	Performance Collection Component	RTM	RTMA	Glance Plus
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	可能	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	可能	可能	可能	可能	X
HP Operations OS Inst Performance LTU	X	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	可能	可能	X	X	X
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Software LTU	X	X	可能	可能	可能
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Pak Software LTU	X	可能	可能	可能	可能

第3章: プロファイルファイルを使用したライセンスの適用

スタンドアロン ノードまたは、HPOM 管理サーバーからのリモートインストールにプロファイルファイルを使用することで、評価ライセンスまたは恒久ライセンスのいずれかを設定することができます。インストールを開始し、必要なライセンスを有効にする前に、テキストファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。

プロファイルファイルの詳細情報は、インストールガイドの「プロファイルファイルを使用した HP Operations Agent のインストール」を参照してください。

プロファイルファイルを使用したスタンドアロン ノードへのライセンスの適用

Windows ノードまたは UNIX/Linux ノードへのインストールを開始する前にテキストファイルにライセンス要件を指定しておく、インストーラはインストール プロセスにそのファイルを使用します。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

プロファイルファイルを使用して評価ライセンスまたは恒久ライセンスをスタンドアロン ノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つシステムにログオンします。
2. テキスト ファイルを開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:Glance_Software_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION`

プロファイルファイルを使用してインストールを開始する前にテキストファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: 記載された LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION` のみを追加します。

リストに記載されているすべてのライセンスを使用する必要がある場合は、`set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION` をテキストファイルに追加します。インストーラーを開始する前にテキストファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

LTU については、「[HP Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

3. テキスト ファイルを保存します。
4. HP Operations Agent のインストール メディアのルート ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

Windows ノードの場合

```
cscript oainstall.vbs -install -agent -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -a -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

UNIX または Linux ノードの場合

```
./oainstall.sh -install -agent -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

リモートの HPOM for Windows からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for Windows から適用するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として、管理サーバーにログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。`%ovsharedir%\conf\PMAD\agent_install_defaults.cfg.sample`
3. `agent_install_default.cfg.sample` を `agent_install_default.cfg` として同じ場所に保存します。

4. agent_install_defaults.cfg ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

[eaagt.license]

- HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- Glance_Software_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- ALL=PERMANENT または EVALUATION

プロファイル ファイルを使用してインストールを開始する前にテキスト ファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION` のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:ALL=PERMANENT` または `EVALUATION` を追加します。

LTU については、「[HP Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HP Operations Agent のインストールを開始します。詳細については、『HP Operations Agent インストールガイド、バージョン 12.00』を参照してください。

リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

注: プロファイル ファイルを使用している場合は、UNIX/Linux の HPOM に修正プログラム QCCR1A138587 をインストールする必要があります。この修正プログラムの入手方法については、HP のサポートにお問い合わせください。HPOM for Windows を使用している場合は、追加の修正プログラムは必要ありません。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for UNIX/Linux から適用するには、以下の手順に従います。

1. root 権限を使用して、HPOM for UNIX/Linux にログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/bbc_inst_defaults.sample.
3. bbc_inst_defaults.sample ファイルを bbc_inst_defaults ファイルとして同じ場所に保存します。
4. bbc_inst_defaults ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

[eaagt.license]

- HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- Glance_Software_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- ALL=PERMANENT/EVALUATION (すべての LTU を使用する場合はこのオプションを使用)

注: LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION` のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、`set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION` をテキスト ファイルに追加します。

LTU については、「[HP Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HP Operations Agent のインストールを開始します。詳細については、『HP Operations Agent インストールガイド、バージョン 12.00』を参照してください。

第4章: 評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用

インストールの種類に基づいて、評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードに設定する必要があります。評価ライセンスはインストール後 60 日間有効になり、期間終了後は製品 (およびすべてのアドインモジュール) はそのノードでの動作を停止します。製品を使用し続けるには、ノードで恒久ライセンスを有効にする必要があります。

手動によるノードへの適用

恒久ライセンスまたは評価ライセンスをスタンドアロンの HP Operations Agent ノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. ノードに HP Operations Agent をインストールします。

HP Operations Agent を使用するには、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。

ヒント: HPOM 管理環境にノードがある場合、`-s` オプションおよび `-cs` オプションを使用して HP Operations Agent をインストールし、ノードの管理サーバーを設定できます。これらのオプションを使用すると、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を有効にするためのライセンスツールが起動します。

2. ライセンスを適用するには、コマンド プロンプト (シェル) に進みます。
3. 目的の LTU の適切なライセンスを有効にするには、次を実行します。

- HP Operations OS Inst Adv SW LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type EVALUATION "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations Agent の運用監視コンポーネントおよび Performance Collection Component の評価ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、アドインモジュールは機能を停止します。

- 運用監視コンポーネントと Performance Collection Component で RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"
```

このコマンドにより、すべての HP Operations OS Inst Adv SW LTU の恒久ライセンスが HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされ、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントがノードで有効になります。評価ライセンスの有効期限が切れると、その他のアドインモジュール (GlancePlus) は機能を停止します。

- HP Operations OS Inst Performance LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Inst Performance LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations Agent の Performance Collection Component の恒久ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、運用監視コンポーネントおよびその他のアドイン モジュールは機能を停止します。

- On UNIX/Linux ノードのみ: Glance Pak Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"
```

このコマンドにより、Performance Collection Component、GlancePlus ソフトウェア、RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスが適用されます。

- On UNIX/Linux ノードのみ: Glance Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

このコマンドにより、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスがノードで適用されます。

4. ノードの LTU の詳細を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは、LTU の詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
このコマンドは、次の詳細を表示します。				
LICENSE NAME: LTU の名前				
TYPE: LTU のタイプ (恒久、評価、延長)				
ACTIVATION: LTU が有効にされた日付 (mm/dd/yyyy 形式)				
EXPIRY: ライセンスの有効期限 (タイプが恒久でない場合)				
EXTN: 評価ライセンスの延長回数				

5. 次のコマンドで、ノード上のすべてのプロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

必要に応じて、HPOM 管理環境にあるノードで、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。評価ライセンスをノードで有効にするには、次のいずれかを実行します。

- ノードにローカルでログオンし、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type EVALUATION "<LTU_name>"
```

- 複数のノードでツールを使用して評価ライセンスを有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. HPOM 管理サーバーにログオンします。
 - b. 次の詳細を指定して、新しいツールを作成します。
 - コマンド呼び出しまたはツール呼び出しを `oalicense` に設定します。
 - パラメータを次のように設定します。
`-set -type EVALUATION "<LTU_name>"`
 - 選択したノードにターゲットを設定します。
 - c. 目的のノードにツールを実行します。

ライセンスの詳細の例

`oalicense` コマンドに `-get` オプションを使用すると、ノードにある LTU の詳細を表示できます。 `-get` オプションに `-all` オプションを使用すると、ノードにあるすべての LTU の詳細を表示できます。または、引数に LTU 名を指定して、ノードにある特定の LTU の詳細を表示できます。

恒久タイプの HP Operations OS Inst Adv SW LTU が有効になっている場合、`oalicense -get "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"` コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	PERMANENT	09/08/2012	11/08/2012	N/A

管理サーバーからの一括適用

HP Operations Agent を HPOM 管理サーバーからリモートでノードにインストールしたり、管理サーバーの詳細を指定して手動でノードにインストールしたりする場合、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。異なるタイプのライセンスをノードで有効にする場合、追加の手順を実行する必要があります。

HPOM for Windows コンソールからの適用

ノードでデフォルトの LTU 以外の LTU を有効にする場合、次の手順を実行します。

1. HPOM 管理サーバーにログオンします。
2. コンソールツリーで **[ツール]** を展開し、次に **[HP Operations Agent]** をクリックします。HP Operations Agent 12.00 配布パッケージで使用可能なツールのリストが詳細ペインに表示されます。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Realtime Permanent License ツールを起動します。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Glance Permanent License ツールを起動します。

5. ライセンスを適用するためにツールを起動したら、Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始する必要があります。

UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するツールを作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM 操作 UI にログオンします。
2. 左のペインで、ライセンスを適用するノードまたはノードグループを選択します。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート] > [HP Operations-agent] > [Set Realtime Permanent License]** の順にクリックします。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート] > [HP Operations-agent] > [Set Glance Permanent License]** をクリックします。
5. Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始します。

HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するアプリケーション (ツール) を作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM for UNIX サーバーにログオンします。
2. HPOM for UNIX コンソールにログオンします。
3. [OVO 登録アプリケーション] ウィンドウに進みます。
4. **[アクション] > [アプリケーション] > [OVO アプリケーションの追加]** の順にクリックします。
[OVO アプリケーションの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [OVO アプリケーションの追加] ダイアログ ボックスで、次の詳細を指定します。
 - [アプリケーション名] ボックスに名前を指定します。
 - [アプリケーション呼出] ボックスに oalicense と入力します。
 - [追加パラメータ] ボックスで、`-set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"` と入力して、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を有効にします。`-set -type PERMANENT "Glance Software LTU"` と入力して、Glance Software LTU を有効にします。
 - **[オペレータが選択したターゲット ノードで起動]** オプションを選択します。
 - **[実行時のユーザー]** セクションで、ノードで HP Operations Agent を実行しているユーザーの

ユーザー名とパスワードを指定します。

- [表示] を **[Window (出力のみ)]** に設定します。

6. **[OK]** をクリックします。

これで、HPOM for UNIX コンソールからアプリケーションを起動できます。ノードでアプリケーションを実行したら、`opcagt -start` コマンドを実行して、必要なプロセスをすべてのノードで起動する必要があります。

評価ライセンスの有効期限の延長

評価ライセンスの有効期限は、60 日間ごとに延長することができます。評価ライセンスの有効期限は 2 回延長できるため、最大 180 日間製品を評価することができます。

評価ライセンスの有効期限を延長するには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限または root 権限でログオンします。
2. 次のいずれかの手順を実行します。
 - Windows の場合
以下の場所に移動します。%ovinstalldir%bin
 - HP-UX、Linux、Solaris の場合
以下の場所に移動します。/opt/OV/bin
 - AIX の場合
以下の場所に移動します。/usr/lpp/OV/bin
3. 評価 LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドにより、システムで有効になっているすべての LTU の詳細が表示されます。これには、すべての評価ライセンスの状態も含まれます。このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	0

評価期限を過ぎても使用する評価 LTU を書き留めます。

4. オプション: コマンドの出力を確認し、(延長する) 評価 LTU が 60 日近く使用されていることを確認します。

注: インストールから 60 日間経過していない評価 LTU の有効期限を延長する場合、最初の 60 日の有効期限が実際に終了するまでの残りの日数は破棄されます。評価 LTU を延長した日から開始してさらに 60 日間だけ LTU を中断することなく使用できます。ただし、評価 LTU の有効期限は 2 回延長できるため、さらにもう 60 日間評価製品を使用することができます。

5. 次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

ここで、

<LTU_Name> は LTU の名前です。

6. 評価 LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	1

LTU の有効期限が、元の有効期限よりも 60 日間延長されたことがわかります。EXTN 列は、LTU の延長回数を示します。

例

インストール後に `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、有効になっている LTU のリストが次の形式で表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

インストール後に HP Operations OS Instance Software LTU を 60 日延長して `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Oct/2012	1
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

アラートの生成

oalicense コマンドに `-expiryAlerts` オプションを使用すると、評価ライセンスが有効な日数を表示できます。

`ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS` 変数を使用すると、HP Operations Agent から HPOM メッセージブラウザにアラートメッセージを送信して、ノードで有効になっている評価エージェントの有効期限に関する詳細情報を通知するよう設定することができます。

この変数を設定するときには、3つの整数値をカンマで区切って降順で指定する必要があります。

たとえば、次のようになります。

```
ovconfchg -ns eaagt -set ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS DAY1,DAY2,DAY3
```

アラートメッセージは、評価 LTU の有効期限が切れる DAY1、DAY2、DAY3 日前に HPOM コンソールに受信されます。

デフォルトでは、この変数は 7、3、1 に設定されます。

第5章: HP Operations Agent 12.00 へのアップグレード

次のいずれかの製品または製品の組み合わせを、HP Operations Agent 12.00 にアップグレードできます。

- HP Operations Agent
- HP Performance Agent
- HP GlancePlus

アップグレードを実行後、古い LTU は自動的に HP Operations Agent LTU にアップグレードされます。ライセンスメカニズムは、古い製品に使用されている古い LTU を自動的に検出し、新しい LTU にアップグレードします。

表 4 は、古い LTU と新しい LTU の対応表です。

表 4: 自動 LTU アップグレード

古い LTU	使用可能な製品または機能	新しい LTU	使用可能な製品または機能
GlancePlus LTU	HP GlancePlus	Glance Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• HP GlancePlus• RTM• RTMA
Performance Agent LTU	HP Performance Agent	HP Operations OS Inst Performance LTU	Performance Collection Component
Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• HP Performance Agent• HP GlancePlus	Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• Performance Collection Component• RTM• RTMA• HP GlancePlus
Operations Agent LTU	HP Operations Agent	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none">• 運用監視コンポーネント• Performance Collection Component

表 4: 自動 LTU アップグレード (続き)

古い LTU	使用可能な製品または機能	新しい LTU	使用可能な製品または機能
OpsPerf Combo LTU	<ul style="list-style-type: none">• HP Operations Agent• HP Performance Agent	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none">• 運用監視コンポーネント• Performance Collection Component

LTU の自動アップグレード後、oalicense ツールを使用して、異なる LTU をノードで適用することができます。

注: HPOM コンソールからリモートでエージェントをインストールして HP Operations Agent 12.00 にアップグレードする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU (恒久) がノードで有効になります。

第6章: 恒久ライセンスの削除

恒久ライセンスをノードから削除するには、次の手順を実行します。

1. 恒久ライセンスが有効になっているノードにログオンします。
2. コマンドプロンプト(シェル)を開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT <LTU>
```

ここで、<LTU> は LTU の名前です。

このコマンドにより、ノードにある指定した LTU の恒久ライセンスが無効になります。LTU で有効にしたコンポーネントを再度使用するには、`oalicense` コマンドを使用して、LTU の評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードで有効にする必要があります。

または、すべての恒久 LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT -all
```

4. 次のコマンドを実行して、すべてのエージェント プロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

第7章: 既存の LTU の変更

oalicense コマンドを使用すると、既存の LTU を別の LTU に変更できます。複数の LTU を同じノードに適用できます。HP Operations Agent 12.00 にノードをアップグレードすると、アップグレードプロセスは自動的に LTU をアップグレードします。ただし、この場合、ノードで RTM コンポーネントまたは RTMA コンポーネントを有効にするには、oalicense ツールを使用する必要があります。

例 1

HP Operations OS Inst Adv SW LTU から HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU への変更

HP Operations Agent 12.00 を HPOM コンソールからインストールする場合、ライセンスのタイプを HP Operations OS Inst Adv SW LTU に設定します。RTM コンポーネントまたは RTMA コンポーネントを使用する場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更する必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更するには、次の手順を実行します。

1. HP Operations Agentのインストール後、ノードで次のコマンドを実行し、既存の LTU を表示します。
`oalicense -get -all`
2. 次のコマンドで、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を適用します。
`oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"`
このコマンドにより、LTU が HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされます。その結果、HP Operations Agent で RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用できます。

例 2

Glance Software LTU から Glance Pak Software LTU への変更

UNIX/Linux ノードのみ。HP GlancePlus の古いバージョンから HP Operations Agent 12.00 にアップグレードする場合、LTU は自動的に Glance Software LTU にアップグレードされます。HP GlancePlus 12.00 と共に HP Operations Agent 12.00 の機能を使用する場合、次の手順を実行します。

1. HP Operations Agent 12.00 へのアップグレード後、ノードで次のコマンドを実行し、既存の LTU を表示します。
`oalicense -get -all`
このコマンドは Glance Software LTU のリストのみを表示します。
2. 次のコマンドで、Glance Pak Software LTU を適用します。
`oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"`
このコマンドにより、Glance Pak Software LTU が有効になります。

3. 次のコマンドで、LTU のリストを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドにより、次の LTU のリストが表示されます。Glance Software LTU と Glance Pak Software LTU です。

4. Glance Pak Software LTU は、HP GlancePlus 12.00 の機能を Performance Collection Component に統合するため、Glance Software LTU を削除できます。Glance Software LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チームまでご連絡](#)ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ライセンス ガイド (Operations Agent 12.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com 宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。